

第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

2016年6月11日(土)～12日(日)

@浅草ビューホテル、台東区立浅草公会堂、台東区民会館、東京都立産業貿易センター台東館

プレコンgresワークショップ4	
企画名	プライマリ・ケア医のための血小板の見方 ～血小板にも愛を～
日時	2016年6月10日(金) 13:30～15:00
会場	第11会場 (台東区民会館 8階 第4会議室)
企画責任者	宮川義隆 (埼玉医科大学病院 総合診療内科・血液内科)
定員	24名
開催の目的・概要	
<p>【開催の目的】</p> <p>プライマリ・ケアにおいて、血算は最も頻用される検査の1つであり、異常値に遭遇することも多い。鉄欠乏性貧血や白血球増多症などは早期診断に至りやすく、扱いに習熟している医師も多いが、一方で法定健診の項目から外れている血小板数については、医師の認識不足などで異常が見逃され、診断や治療が遅れることが散見される。専門性が高く、悪性疾患や緊急疾患が多いためか、血液領域の診療に苦手意識を持つ医師は多いが、基礎的な知識を上手に学べば日常臨床における鑑別診断や初期対応は可能となる。一方、本邦において非専門医が血液診療を体系的に学ぶ機会は限られているのが現状である。本ワークショップでは、止血と創傷治癒に不可欠な血小板にスポットを当て、症例ベースで学ぶことで血液診療に対する苦手意識を除き、日頃見逃しやすい血算の異常を理解することが目的である。</p> <p>【概要】</p> <p>血小板減少をきたした2症例を用いたグループワークを行う。プライマリ・ケア医が遭遇する血小板減少の原因として頻度の高いものは、偽性血小板減少症、肝硬変、薬剤性血小板減少症、膠原病、特発性血小板減少性紫斑病(ITP)などがある。高齢者では急性白血病と骨髄異形成症候群などの造血器悪性腫瘍も忘れてはならない。入院患者においては、播種性血管内凝固症候群(DIC)、ヘパリン起因性血小板減少症(HIT)、難病に指定された血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)なども念頭におく必要がある。頻度と病態を軸に鑑別診断を進め、重大な出血や血栓症の原因となるような緊急疾患を的確に拾い上げて初期対応を行うまでの手順をロールプレイ形式で学ぶ。専門医への適切なコンサルトのタイミングについても解説を加える。到達目標の目安として、米国内科専門医試験の問題を参考とした。</p>	